

基礎看護学実習評価表

(学 生)

評価日

年 月 日

第 期生 学年 番		学生氏名					
評 価 内 容		評 価					学生自己評価のみ記入
知識・思考	《対象理解》	A	B	C	D	E	今後の自己の課題と考える 学習内容の項目番号
	1. 疾病や治療が身体面に及ぼす影響についてアセスメントできる。						
	2. 疾病や治療が心理面に及ぼす影響についてアセスメントできる。						
	3. 疾病や治療が日常生活や社会面に及ぼす影響についてアセスメントできる。						
	4. 対象の全体像を捉えることができる。						
	5. 看護診断とその優先順位を考えることができる。						
技 能	《看護実践》						
	1. 言葉づかい・身だしなみに配慮し、個別性を踏まえたコミュニケーションを図ることができる。						
	2. 1 つの看護診断に対して看護の必要性をふまえ、看護目標の設定・看護計画の立案ができる。						
	3. 看護計画に基づいた観察・身体診査ができる。						
	4. 日常生活援助の必要性・方法を明確化し、科学的根拠に基づき、日常生活上の留意点の説明や、安全・安楽ら援助の実施できる。						
	5. 実施した援助が、対象に与える影響と反応について経過記録を用い、記録・日々の評価ができる。						
	6. 立案した看護計画および看護目標の達成度について評価ができる。						
態 度	《チームの一員としての責任》						
	1. 看護体制および医療チーム体制を知り、多職種連携の必要性について記述できる。						
	2. 病棟における医療安全対策の実践について知る。						
	3. 必要な連絡・報告・相談ができる。						
	4. 実習中の時間管理・健康管理ができる。						
	《看護観を深める》						
	1. 対象の自己決定の権利を尊重した、思いやりのある態度がとれる。						
	2. 守秘義務を遵守できる。						
	3. 看護実践を振り返り、看護過程の展開の意味と自己の看護観について記述できる。						
	《看護者としての基本的態度》						
	1. 看護に対する問題意識を持ち、主体的な問題解決や文献検索活動ができる。						
2. 積極的な質問と発言ができ、相手の意見を活かそうとする態度がとれる。							
3. 批判的思考・論理的思考を意識した発言や記述ができる。							
《評価基準》 A:非常に良い(100 点) B:よい(80 点) C:普通(60 点) D:あまりよくない(40 点) E:よくない(20 点)							
記入者サイン						印	
《出席状況》 遅刻		早退		欠席		評価点 点	

